

B型肝炎予防接種説明書

1. 予防接種の対象となる病気

◆ B型肝炎

B型肝炎ウイルス感染によっておこる肝臓の病気です。B型肝炎ウイルスに感染した血液等に接触した場合に感染を起こすことがあり、一過性の感染で終わる場合と、そのまま感染している状態が続いてしまう場合(この状態をキャリアといいます)があります。また、経過の違いから、急性肝炎と慢性肝炎があり、急性肝炎は稀に劇症化する場合もあることから注意が必要です。キャリアになると慢性肝炎になることがあり、そのうち一部の人では肝硬変や肝がんなど命に関わる病気を引き起こすこともあります。

2. 組換え沈降 B型肝炎ワクチン(不活化ワクチン)

化学及血清療法研究所(化血研)とMSD株式会社の2社が製造しており、いずれも組換え沈降B型肝炎ワクチン(酵母由来)です。

ワクチン接種による抗体獲得率は40歳までの接種では95%と報告されています。また、ワクチン3回接種後の感染防御効果は20年以上続くと考えられています。

なお、B型肝炎ワクチンは酵母由来であることから、酵母に対するアレルギーに注意が必要です。また、MSD社が製造するB型肝炎ワクチンについては、バイアルのゴム栓に天然ゴムが含まれており、ラテックス過敏症(※)のある方が接種を受けるとアレルギー反応が現れる可能性がありますので、予め医師に相談してください。

※ラテックス過敏症とは、天然ゴムの製品に対する即時型の過敏症です。皮膚と天然ゴム中のラテックスタンパク質との接触により、赤み、かゆみ、じんましんなどのアレルギー症状が発現し、まれに呼吸困難、血圧低下や意識障害などのアナフィラキシーショックを引き起こします。果物の摂取によるラテックス・フルーツ症候群を発症することがあり、特に栗、バナナ、アボカド、キウイフルーツ、メロン等は、発症リスクが高く、重症化するので注意が必要です。

3. 副反応

主なものは、倦怠感、頭痛、局所の腫脹、発赤、疼痛等であり、一般的に重大なものは認められていません。極めてまれに、アナフィラキシー、急性散在性脳脊髄炎などの重い病気にかかることがあるといわれています。

4. 接種時期(標準的な接種時期)

- 1歳未満の年齢に3回接種します。標準的な接種期間は生後2ヵ月～生後9ヵ月未満です。
- 1回目:生後2ヵ月から接種
- 2回目:1回目の接種から27日以上間隔をあけて接種
- 3回目:1回目の接種から139日以上間隔をあけて接種

予防接種を受けるに際し、次のことに十分注意のうえお受けください。

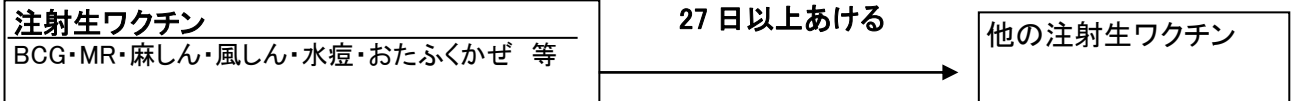
- 予診票は、接種を受けるお子様の当日の健康状態を保護者の方が責任をもってご記入ください。
(各項目の記入漏れがないようご注意ください)
- 説明書及び下記の注意事項をご理解のうえお受けください。

(1) 予防接種を受けられないお子さんは、次のようなお子さんです。

- ① 明らかに発熱のある人(37.5℃以上の方)。
- ② 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな人。
- ③ その日に受ける予防接種によって、または予防接種に含まれている成分で※ アナフィラキシーを起こしたことがある人。
- ④ その他、医師が不適切な状態と判断した場合。

※アナフィラキシーとは、接種後30分以内に起こるひどいアレルギー反応のことです。汗がたくさん出る、顔が急に腫れる、全身にひどいじんましんが出るほか、はきけ、嘔吐、声が出にくい、息が苦しいなどの症状に続きショック状態になるような、はげしい全身反応のことです。

(2) 予防接種の効果や安全性を確保するため、異なる種類のワクチンを接種する際は、次のことにご留意ください。



上記以外では、異なる種類のワクチン接種間隔は制限なし

(3) 接種後の一般的注意事項は次のとおりです。

- ① 接種当日は過激な運動はさけてください。
- ② 接種後生ワクチンでは4週間、不活化ワクチンでは1週間は副反応の出現に注意してください。
- ③ 入浴は差し支えありませんが、わざと注射した部位をこすことはやめ清潔にたもってください。
- ④ 局所の異常な反応や体調の変化を訴える場合は、速やかに医師の判断をお受けください。
- ⑤ 接種後、高熱・けいれん・不機嫌等の異常な症状をあらわした場合は速やかに医師の診察を受けてください。

(4) 予防接種による健康被害救済制度

予防接種によって引き起こされた副反応により、医療機関での治療が必要になったり、生活に支障がでるような障害を残すなどの健康被害が生じたりした場合には、給付を受けられる可能性があります。

※その際には、健康増進課までご相談ください

(健康増進課 電話 0285-22-9526)